

中学校 1年 英語科 「電話で誘う」の実践

相馬市立中村第二中学校 菊地 寛

自己テーマ	場面や状況を考え、適した表現を選択できる力の育成
-------	--------------------------

中学校で初めて、英語を使った電話での表現を学習する。表現自体は初歩的で難しくはないが、電話をかける目的に「相手を誘う」表現が入っており、実践的な内容である。オリジナルのスキットを作成する際に、実際の場面を想起させながら使用表現を選択させることで、思考・判断・表現力を高めたい。

1 育てたい思考力・判断力・表現力

- (1) 使用場面に適した表現を考え、決定する力（思考力・判断力）
- (2) 場面に応じて表現を選択して書く力（判断力・表現力）
- (3) その場の状況にふさわしい声の大きさやイントネーションで会話をする力（表現力）

2 「言語活動」の工夫

- (1) 学びがいのある魅力的な学習課題
 - ① スキットを作成する際に、何に誘う場面なのか自分で設定させることにより、活動への意欲付けを図る。
 - ② 誘いを一度断るなど、工夫したスキットをつくるよう促し、よりよい対話文には高い評価を与えて表現意欲を喚起する。
- (2) 教師によるコーディネート
 - ① Tool Box で複数の表現を提示するとともに、そのニュアンスを説明して、より効果的に表現を選択できるように支援する。
 - ② 作成したスキットを発表する機会を設定して「話す」力を評価するとともに、場面にふさわしい表現方法を全体で確認したり紹介したりして、クラス全体の表現力の向上を図る。

3 実践の結果

- 誘う内容を決めるのに予想以上の時間がかかったが、その分、大半の者が状況にあった表現を選択し、まとまったスキットを作成することができた。
- Tool Box を活用し、他の人と違った対話文を作成したり、より多くの表現を使ったりするなどの条件をあらかじめ伝えておくことで、表現意欲が高まり、より適切な表現を自ら考える活動となった。
- スキットの発表は、時間的な制約から4～5人とどまったが、自発的に発表したり、発表者に対する評価を述べるなど積極的にコミュニケーションを行う姿が見られた。
- 基本的な表現を定着させるために、誘う言い方を Let's ~ や How about ~ に絞って提示したため、似たような作品が多くなってしまった。
- 文末のイントネーションや感情表現を意識して指導しているが、実際に話したり音読したりする際には、恥ずかしさなどもあって満足のいくレベルにはほど遠い。声が極端に小さかったり、棒読みしたりする生徒に対して、間違いを許容できる「親和的な学級集団」の育成が必要である。



第1学年2組 英語科学習指導案

平成24年 11月 2日 (金) 3校時

場所 1年2組教室 指導者 菊地 寛

1 単元名 Speaking Plus 1 「電話での応答」

2 単元設定の理由

(1) 生徒観

男子13名、女子12名、計25名の落ち着いたクラスである。英語に対しては、約6割の生徒が興味・関心をもっているものの、4割が「あまり関心がない」ことも考慮しなければならない。また、7割の生徒が「書く」ことが好きで、約半数の生徒が英語を「話す」、「読む」活動を苦手としている。家庭学習の習慣はよく身につけており、教師の指示したことをしっかり果たそうとする生徒が多い。

(2) 教材観

電話での応答で、話したい相手が電話に出た場合の簡単なやり取りが取り上げられている。この題材で、中学生として初めて、英語を使った電話での表現を学習する。電話では、Hello. や This is ~ が既習の内容とは違った意味で使われるため、多少混乱する可能性がある。場面の中で繰り返し使用させることで定着を図ったほうがよい題材である。

(3) 指導観

電話での基本的な表現を用いて、相手を誘う対話文に慣れさせたい。最終的には、教科書のモデル対話を発展させ、オリジナルな場面を設定したスキットを作成・発表させることで、「書く」「話す」などの表現力の育成を図りたい。

3 指導・評価計画 (総時数 4時間)

	学習活動	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
1	本文 (P.58 ~ 59) の内容理解とロールプレイ	身振り、手振りを交えてロールプレイを行っている。		登場人物の気持ちが表れるように音読することができる。	
2	「電話で誘う」対話文の作成①	Tool Box を利用し、工夫して対話文を作成している。	場面に適した表現を選択して対話文を作成することができる。		正しい語順やスペルで対話文を書くことができる。
3 (本時)	「電話で誘う」対話文の作成②と発表	進んで対話文を発表しようとしている。	その場の状況にふさわしい話し方で発表することができる。		
4	まとめと補充		電話の基本表現を書くことができる。		基本表現の意味と使用場面を理解している。

4 本時のねらい

対話文を完成し、その場にふさわしい話し方で発表することができる。

5 「言語活動」の工夫

- (1) 何に誘う場面なのか、自分で設定させることにより、活動への意欲付けを図る。
- (2) Tool Box で複数の表現を提示してそのニュアンスを説明し、より効果的な活用が図れるようにする。
- (3) 工夫したスキットをつくるよう促し、よりよい対話文には高い評価を与えて表現意欲を喚起する。
- (4) つくったスキットを発表する機会を設定して「書く」「話す」力を評価するとともに、場面にふさわしい表現を全体で確認し、賞賛することで、クラス全体の表現力の向上を図る。

6 指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態	○教師の支援 ★評価(方法) 「言語活動」の工夫
導入	1 大きな声であいさつし、教師の質問に答える。 ・ How are you ? — I'm <u>hungry</u> , thank you. And you? (sleepy, fine etc.) ・ What's the date today? ・ How's the weather today?	3	一斉 個別 ペア	○ 体調をできるだけ正確に表現できるよう確認・支援する。 ○ 新しい月に入ったので、スペルにも気をつけて覚えるよう話す。
	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">対話文を完成し、その場にふさわしい話し方で発表しよう。</div>	2	一斉	○ 前時までの作成状況を踏まえ、本時の活動を確認して見通しを持たせる。
展開	3 対話文を完成する。	1 5	個別	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">Tool Box で複数の表現を提示してそのニュアンスを説明し、より効果的な活用が図れるようにする。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">Tool Box を利用するなどして工夫することで評価が上がることを伝え、表現意欲を喚起する。</div>
	4 完成した対話文を音読練習する。	5	個別	○ 発表に備え、スムーズに話せるように対話文を音読練習する。
	5 対話文を発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">A: Hello? B: Hello, Naoki? This is Tomoya. A: Oh! Hi, Tomoya. B: Are you free on Saturday? Let's go fishing. A: OK, let's. What time? B: How about nine? A: Great. See you then. Goodbye. B: Bye.</div>	1 0	個別	○ 自発的な発表者には、賞賛のステッカーを与える。 ○ 工夫した対話文を教師があらかじめ把握しておき、挙手が見られない場合は指名して発表させる。
	6 自己評価する。	2	個別	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">場面に適した話し方や表現を取り上げて確認し、賞賛することで、クラス全体の表現力の向上を図る。</div> ○ 対話文作成や発表を振り返り、自己評価欄に記入するよう指示する。 ★ 対話文を完成し、その場にふさわしい話し方で発表することができたか。(発表・自己評価)
終末	7 定着確認の問題を解く。	1 0	個別	○ 電話での基本表現を書くことができるか確認する。
	8 次時の学習内容を聞く。	2	一斉	○ 次時は、本単元のまとめと補充を行うことを伝えるとともに、ワークブックの指定のページをやってくるよう指示する。
	9 終わりのあいさつをする。	1	一斉	○ 教師の目を見てあいさつするよう促す。

7 授業の実際（下線部は教師によるコーディネート）

<導入>

- ウォームアップで、体調、月日、天候などについてたずねた。いつもと同じように全体的にはスムーズに応答が進むが、女子の声は相変わらず小さい。
- 本時で対話文を完成させ、発表してもらうことは前時で話していたので心構えはできていたようである。2、3人の生徒がすでに完成していたので、できるだけ暗記し、つまづかないで音読するよう指示した。



ウォームアップでのQ&A

<展開>

- 対話文の作成
教科書と同じような展開ではなく、一度誘いを断るように設定してほしいことを伝えたところ、大半が "Sorry, I'm busy." を選択した。そのような中で「ピアノのレッスンがある」と書いた生徒がいたので、断る設定の工夫として紹介した。

- 完成した対話文を音読練習する際の指示

①文末のイントネーションを意識して読むこと

- ・ Hello, Rina? (↗)
- ・ Are you free on Saturday afternoon? (↗)
- ・ What time? (↘)
- ・ How about eleven? (↘)

②気持ちが表れるように読むこと

- ・ Oh! Hi, Ami. (相手が友達だとわかって声のトーンが上がる)
- ・ Great. (「それでいいよ」という肯定の気持ち)



スキットの音読練習中

- 対話文の発表

- ① 自発的に発表してくれる者にはシールを与えることを伝えると、数人の男子が挙手した。生徒同士の発表はスムーズに行かないようなので、「友達」のパートは教師が務めた。
- ② イントネーションや感情表現が上手だった所を取り上げて賞賛し、クラス全体で共有できるようにした。



先生とのスキット発表

<終末>

- 定着問題への取り組み

電話での基本表現の他、誘うときの表現をいくつか出題した。本時では話すことを中心とした指導が多かったため、スペルなどでの細かいミスが目立ち、書く力は不十分であることが分かった。

8 考察

(1) 成果

- ① 何に誘う場面なのか、自分で設定させたことにより、話の展開を工夫しようとする意欲につながった。誘う内容を決めるのに予想以上の時間がかかったが、その分、大半の者が状況にあった表現を選択し、まとまったスキットを作成することができた。
- ② 工夫したスキットを作るよう促すだけでなく、それが高評価につながることをあらかじめ伝えておくことは重要である。さらに、達成基準（必ず誘いを一度断る、Tool Box の表現を使う、文の数が多い方がよいなど）が明確であれば、活動意欲は増すことが改めてわかった。
- ③ スキットの発表は、時間的な制約から4～5人とどまったが、自発的に発表したり、発表者に対する評価を述べるなど積極的にコミュニケーションを行った者には、賞賛を与えることで意欲を喚起することができた。

(2) 課題

- ① 基本的な表現を定着させるために、誘う言い方を Let's ~ や How about ~ に絞って提示したため、似たような作品が多くなってしまった。基礎・基本の定着と、表現力の向上を両立させるバランスが難しい。
- ② 文末のイントネーションや感情表現を意識して指導しているが、実際に話したり音読したりする際には、恥ずかしさなどもあって満足のいくレベルにはほど遠い。声が極端に小さかったり、棒読みしたりする生徒に対して、間違いを許容できる「親和的な学級集団」の育成が必要である。

9 資料

スキットの生徒作品



定着確認問題

◎ 次のようなとき英語でどのように言いますか。

- 1 電話で「もしもし?」というとき
- 2 電話で「(こちらは)ケンですけれど。」と名乗るとき
- 3 「日曜日はひま?」と相手に聞くとき。
- 4 「ごめん、忙しいんだ。」と言うとき
- 5 「10時はどう?」と提案するとき
- 6 「じゃあね。」と別れるとき。
(2語で)
- 7 「さようなら。」というとき。
(1語で)

自己評価項目

- ① 対話文の作成では、Tool Box を利用し、ストーリーを工夫したか。
(4・3・2・1)
- ② 文末のイントネーションに気をつけ、気持ちが表れるように読んだり話したりすることができたか。
(4・3・2・1)